

自然博物館発見ノート（観察編）解答

2021 改訂版

小・中学生向き

【P.1～4】 鳥について調べよう

1 (1)例：羽根がある。翼がある。飛ぶことができる。羽ばたく。脚にうろこがある。くちばしがある。さえずる。など(2)特に正解はありません。子どもたちはニワトリやドバトなどの名前をあげるかもしれませんが、それらは、家禽（かきん：飼われている鳥、人間の利用のために野生種を改良したもの）です。野禽（やきん：野生種）との違いについて話してあげましょう。

2 長い時間見るものなので、ピントがきちんと調節されていないと、頭痛や吐き気の原因になります。また、落とさないように、首から必ずストラップで下げるようにしましょう。落とすとレンズが割れるほか、光軸のずれの原因になります。

3 博物館の野外や周辺で見つけられる野鳥をリストに入れてあります。リストにない野鳥は、「そのほかに見つけた鳥の名前」の欄に記入させてください。

4 ディスカバリープレイスの展示からわかる鳥

留鳥：オオバン、コサギ、アオサギ、カワセミ、シジュウカラ、キジバト、コゲラなど

夏鳥：ツバメ、オオルリ、アマサギ、キビタキなど

冬鳥：コハクチョウ、マガモ、オナガガモ、シメ、ヒレンジャク

ページの下の茨城県の林や水辺で見られるおもな鳥のリストを参考にして、留鳥、夏鳥、冬鳥を考える活動も可能です。

小・中学生向き

【P.5～8】 昆虫などの虫について調べよう

1 花：キアゲハ、モンシロチョウ、セイヨウミツバチ、ハナアブなど

木のみき：ニイニイゼミ、アブラゼミ、カブトムシ、カナブン、コクワガタなど

落ち葉の下：ハサミムシ、ゴミムシ、トビムシなど

地面の上：クロアリ、ケラ、オサムシなど

草原やしばふ：トノサマバッタ、オンブバッタ、オオカマキリなど

水辺や水中：アメンボ、ミズカマキリ、シオカラトンボ、ノシメトンボなど

2 昆虫に限らず見つけた虫について3つの観点でスケッチをさせましょう。観察しやすい大きさの虫を選ばせましょう。

3 脚の本数や体の節に注目して仲間分けさせましょう。

中学生向き

【P.9～10】 身近な植物の観察と分類

単子葉類：ヨシ、イネ、ノガリヤス

合弁花類：セイヨウタンポポ、ホトケノザ、コヒルガオ

離弁花類：タチツボスミレ、ドクダミ

裸子植物：アカマツ、スギ、イチヨウ

シダ植物：イヌワラビ、ゼンマイ

コケ植物：ゼニゴケ、スギゴケ

藻類：アオミドロ、ミカヅキモ

小・中学生向き

【P.11～14】 花のつくりを調べよう

参考資料の花のつくりと付き方を参考にしてスケッチしてみましょう。

6 花は種子をつくるための器官

小・中学生向き

【P.15～16】 天気を調べよう

- 1 風の向き（風向）は風がふいてくる方の方角をいいます。北からふいてくる風を北の風といいます。風力は風力階級の表を参考にしましょう。

中学生向き

【P.17～20】 岩石について調べよう

- 1 火成、堆積、変成
- 2 しま
- 3 黒、白、透明（灰色）角張っている
- 4 ○
- 5 白、20（20前後の数字がはいっていけばよい）、イ
- 6 黒または濃い緑
- 7 白、紫、緑、○
- 8 ○
- 9 8、角張っている
- 10 紫、または薄い茶色など
- 11 下の図、笹
- 12 下の図、2～10程度の数字
- 13 年輪が見える。枝が出ていた部分が見られる。

違い：アメリカのものは茶色と薄い灰色だが、大子町のものは黒っぽい色をしている。
（または、大子のものは薄くつぶれている。）

〈11の解答例〉



〈12の解答 例〉

